

## ～現役時代に身に付けたマジックで社会貢献～

名前（年齢）	いとう きよ 伊藤 喜代さん（91歳）
地域	山口県山口市
活動概要	現役時代に身に付けたマジックを、Uターンした故郷でマジッククラブに入会し、老人ホームなどで披露している。クラブでは週に2回練習に励み、毎年恒例のチャリティーショーで新しいマジックを披露している。
表章の類型	自らの努力、習練等により、優れた体力・気力等を維持し活躍している事例
キーワード	マジック／施設訪問／観光ガイドボランティア

\*年齢は、平成25年4月1日時点

### ■活動のきっかけ

#### 軽い気持ちで習い始めたマジックから

昭和34年（38歳）、東京で証券会社に勤務していた時、軽い気持ちで奇術クラブに入会しました。「二人の子育てをしながらもクラブに通えたのは、家族の協力のお陰でした」と当時を振り返りながら、当時習ったマジックを今でも趣味として楽しむことができることに感謝しています。昭和59年、63歳で山口市にUターンし、山口マジシャンズクラブに入会しました。同クラブは、毎月1回老人ホームや児童福祉施設などを訪問しています。また、依頼があれば何処へでも出向いてマジックを披露しています。



恒例のチャリティーショーでマジックを披露する伊藤さん

### ■活動内容や現在の活動状況

#### 楽しみながら演じるマジック

得意とするマジックは、シルク、ロープ、コイン、カードを使ったものなど、レパートリーは100を超えています。施設などでは舞台上に立って行うステージマジックを主に演じています。毎月2回、クラブの定例合同練習会に出席し、1回はプロのマジシャンによる勉強会、もう1回は会員同士で披露しあい、忌憚のない意見交換し合いながら腕を磨き、演じるマジックの種類を増やしています。伊藤さんは、山口マジシャンズクラブの中で最高齢です。同クラブの女性会員から「私たちの憧れの的」と慕われています。



海外旅行中に購入した民族衣装を身に付けて演じる光景（写真中央が伊藤さん）

平成 23 年 4 月、不運にも転倒して肋骨を折り約 1 か月間入院した時も、トランプを使ったマジックで医師や看護師さんたちを楽しませました。「見てくれる人の笑顔が自分に喜びとして跳ね返ってくる。だから技術を追求し、挑戦することが、私の生きがいになっています。」と人生哲学を語っています。



施設で披露している伊藤さん

マジックは種を決して聞くものではなく、また、種を明かすものではないことを原則にしています。練習に練習を重ねた成果を種が明かされないよう演じるのがマジックの秘訣といえます。このことがマジックを見ている人を楽しませる秘訣にもつながります。そして、演じる自分たちも充実感、達成感を味わうことができます。山口マジシャンズクラブ恒例となっている毎年 11 月のチャリティーショーのステージに立ち、新しいマジックを披露することを楽しみに練習に励んでいます。

## ■ポイント、工夫している点

### コスチュームにも工夫を凝らして

山口にUターンしたのをきっかけに始めたことがあります。それは、山口に住むからには山口を学ぼうと大内文化探訪会に入会したことです。学んだ成果として、72 歳から 81 歳までの 9 年間、山口観光ボランティアガイド協会に所属し、観光ボランティアも行いました。観光ボランティアをしながら、旅行に出かけるのも趣味でした。それは、ボランティアガイドにいかせるガイド技術を学ぶためであり、もう一つの目的は、マジックにいかせる小道具を購入するためでした。国内旅行だけではなく、海外旅行では、マジックを演じる際に身につけるコスチューム選びにも余念がありませんでした。上海を訪れた時には、民族衣装も手に入れました。спанコールなどをあしらった衣装で見る人の目を奪うこともあります。

### 〔本人インタビュー〕

現在、一人暮らしです。毎回の食事には、10品以上を摂取するように心がけています。調味料にも気を遣い、パンにはバターを付けず、コーヒーには砂糖は入れない。これが私の健康を保つ食事の流儀です。精神面にも気を付け、過去を振り返らず、くよくよしないようにしています。舞台に立ち、人前で披露することができる限り、もっともっと人々に笑顔が湧き上がるマジック（魔法）を演じ続けていきたいです。



地元ラジオ局収録中にもテーブルマジックを演じている様子